

福山大学 社会連携センター 2020年度 自己点検・評価書

基準1.	理念・目的
領域:	使命・目的、教育目的

2020年度

社会連携センター

中長期計画	<p>現在わが国は、少子高齢化の進行に伴う労働力人口の減少、経済の東京一極集中、グローバル化の進行等への対応を迫られている。また、AIやIoTの進歩による技術革新は、産業構造や就業構造の変化をもたらさずにはおかない。こうした変化を地方創生、ひいては日本再活性化の好機とするには、地域の産学官が連携して人材育成や研究・開発を推進することが不可欠であろう。</p> <p>福山大学は「地域の中核となる幅広い職業人の育成」をミッションとし、地域との連携のもとに教育・研究を展開している。そしてその成果が、備後地域に多数存在するオンリーワン・ナンバーワン企業をはじめとする諸組織のニーズに応えるものでありたいとも考えている。また、大学の研究成果を地域社会一般に還元することも本学の役割である。こうしたことから本学は、「大学の第三の使命」と言われる社会貢献を行う上で、社会連携を以下のように進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の知の拠点としての機能を高め、地域社会との連携を通じた教育・研究活動を積極的に行う。 2) 地域社会と連携して教育と研究を行い、知的創出物を有効に活用するため、大学の知財を適切に管理する。 3) 地域の企業や自治体等のニーズに応じた連携を図りつつ、学術研究成果を積極的に技術移転し、地域振興、産業の発展に寄与する。 4) 教育・研究活動の知識、技術、教育上のノウハウを最大限に活用し、生涯学習機会の提供や初中等教育機関と連携しての人材育成に寄与する。 <p>上記の使命・目的を推進していくために中期計画2020-2024を策定した。</p>
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2020年度

社会連携センター

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	社会連携センターポリシーは、大学の第三の使命である社会貢献を目的とした具体的な4つの使命を明記している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センターHP https://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	4つの使命は、「地域」に重点をおいた内容としている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センターHP https://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	ポリシーでは日本の現状と課題だけでなく今後の技術進化や大学の役割についても触れている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センターHP https://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

中点検項目	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
-------	---------------------

点検項目	① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	社会連携センターの使命・目的に則した活動を実行し、その結果を検証するために、各学部・学科からの構成員から成る運営委員会がある。運営委員会では前述のほか、各学部・学科からの意見に基づく審議や決定事項の情報伝達を行う。また、社会連携センターの活動や産学連携情報をセンターニュースを通じて直接、教職員に伝えている。社会連携センターの事業活動には協力頂いていることから教職員の理解と支持は得られていると考えられる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①社会連携センターニュースVol. 31～Vol. 41
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	社会連携センターHPにて公表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センターHP https://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	産学連携・知財部の研究成果発表会、高大連携部の教育ネットワーク中国と連携した公開授業・公開講座、地域連携部の公開講座、これらは事業が定式化されている。2019年度に見直した中期計画に基づき新たな課題を検討していく。
年度目標	中長期計画に基づき、「地域交流」と「サイエンスラボ」を検討する。
年度報告	新型コロナウイルス感染症の影響で中期計画に取り組むことができなかった。
達成度	B
改善課題	コロナ禍でも実施する方策を検討する。
根拠資料	①社会連携センター中期計画（2020年から2024年）
次年度の課題と改善の方策	2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響が残るが、2020年3月に策定した中期計画（2020年から2024年）を1年遅れでできるところから取り組んでいく方法を検討する。
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	社会連携センターの活動内容は、三つのポリシーとは直接関係しないため反映させていない。ただし、使命・目的は福山大学の「地域の中核となる幅広い職業人の育成」というミッションに基づき作成されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センターHP https://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	センター長・副センター長（ともに兼任）のほか専任教員が1名、ほか運営委員会委員として各学部・事務から計16名で構成されている。3部門で活動内容に差異はあるが、現状では組織構成に問題はない。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センター運営委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

基準2. 学生

領域: 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2020年度

社会連携センター

中長期計画

2020年度

社会連携センター

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	
年度目標	

年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	
年度目標	

年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施しています
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	

達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

基準3. 教育課程

領域： 卒業認定、教育課程、学修成果	
2020年度	社会連携センター
中長期計画	
2020年度	社会連携センター
中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準（ルーブリック等の評価指標を含む）等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
2020年度	社会連携センター
中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	

達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

基準4. 教員・職員

領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

中長期計画	<p>社会連携センターのスタッフは、担当副学長を筆頭に、センター長、副センター長、専任教員、事務が核となり方向性を定め、3部門長（地域連携、産学連携・知財、高大連携）を含めた中枢で運営マネジメントしている。各学部から選任された教員は先の3部門に所属し、社会連携センターの活動が行われている。現状の体制や事業に大きな課題はないが、下記が検討項目として挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の事業内容に応じた部門数と配置教員数の検討 ・学外文書窓口の明確化 ・各学部から選任された教員の研修（特に、契約事項での留意事項）
-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	社会連携センター規則に則り、センター長および副センター長は評議会の議を経て学長が任命する。運営委員会の構成は、センター長、副センター長、産学連携部長、知財部長、地域連携部長、高大連携部長、各学部から選出された3名の教員から成る。運営委員会の委員長および議長はセンター長を充てること、が規則に明記されている。また、センター長は担当副学長や前記幹部および担当事務と協議し、方針の検討を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センター規則
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	社会連携センターの3部門（地域連携、産学連携・知財、高大連携）に部門長を置き、各部門の活動の計画・実施を担っている。運営委員会で活動報告を行う。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	社会連携センターの業務における事務手続きや文書管理は、企画・文書課が対応している。大学内外からの窓口は専任教員が対応している。センター3部門の業務は、各学部から選任された委員を配置し運営している。役割が明確化され、教学マネージメントの機能性を高めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センター運営委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成（性別、年齢、職階等）となっていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	

改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取り組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	・専任教員の外部講習会への参加を奨励している。 ・イベントにおける教職協働を意識した活動を心掛けている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①活動リスト ②主な活動 福山大学HP (https://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	社会連携に関する情報はメール発信とし、契約雛型はHPからダウンロードできるようにしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	契約関係の文書データ等は、従来通りHPに掲載している。教員から社会連携センター事業に関係するデータは、メールあるいはSharePointを利用している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センターSharePointデータ
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

社会連携センター

基準6. 内部質保証**領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

2020年度

社会連携センター

中長期計画	<p>社会連携センターの中心スタッフは、担当副学長、センター長、副センター長、専任教員、担当事務および3部門長(地域連携、産学連携・知財、高大連携)である。先の3部門に各学部から選任された教員が委員として所属している。</p> <p>年度始めの運営委員会では年度計画・予算を説明し、前期末の運営委員会では次年度計画・予算要求を審議する。その他、運営委員会では事業実施後の反省点・改善点を協議する。今後、自己点検評価項目を考え年度末に運営委員アンケートにより、センターの自己評価を検討する。</p>
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2020年度

社会連携センター

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心スタッフの構成は、センター長、副センター長、専任教員、担当事務、3部門長である。中心スタッフで協議し、意思決定と役割を明確にしている。 ・ 自己点検は、福山大学社会連携センター自己点検評価委員会細則に則り、センター長・副センター長・3部門長・専任教員から成る自己点検評価委員会(委員長:センター長)にて審議する。 ・ 自己点検評価実施小委員会による点検結果を反映させた自己点検報告書・計画書は、社会連携センター運営委員会(委員長:センター長)で審議する。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学社会連携センター規則 ②社会連携センター自己点検評価委員会細則 ③社会連携センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	社会連携センター自己点検委員会の規程に従い、自己点検・評価が実施され、その結果を運営委員会で報告している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センター運営委員会議事録 ②2020年度自己点検報告書 ③2021年度自己点検計画書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	社会連携センターが蓄積する情報は、①受託研究・共同研究情報、②協働事業契約情報、③公開授業・公開講座情報、④研究者情報一覧、⑤研究成果発表集、⑥社会連携活動調査情報などが挙げられる。2019年度に受託・共同研究に関するデータ分析を行った。
年度目標	他の情報についてデータ分析を検討する。
年度報告	受託研究・共同研究について分析を行い、運営委員会で報告するとともに社会連携センターニュースで全教職員に配信した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センター運営委員会議事録 ②社会連携センターニュースVol. 41
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価 (本学独自基準)

中長期計画	<p>社会連携センターは、福山大学ブランディング戦略と地域社会とのコーディネータ的な役割を果たせるのが望ましい。ただし、社会連携センターの専任教員は1名であり、出来ることは限られている。そこで、社会連携センターでは以下を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会連携推進センターにおける「福山大学ブランディング」の常設展示(他の委員会と協働で実施) ・学生向けとして7号館に「福山大学ブランディング」情報閲覧室を開設(他の委員会と協働で実施)
2020年度	社会連携センター
中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略(ver. 2018)の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	学生は不在で専任教員は1名である。専任教員への周知はできている。他の兼任教員は所属部署にて周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	研究成果発表集の原稿作成にあたり専任教員とともに、ブランディング事業関連の研究応募を促進し、目次に反映させている。これにより、ブランディング事業関連研究の状況を把握することができた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度研究成果発表集 https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7541000-3-10
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	社会連携センターは広告ではない分野でブランディングに関する企画・実施をする組織ではないため、特段の取組みはない。研究成果発表会を通じて、社会への広報を支援している。
年度目標	現状を維持
年度報告	新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度研究成果発表会は実施できなかった。しかし、ブランディング戦略を含む研究成果発表集を作成しHPで社会へ広く広報している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度研究成果発表集 https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7541000-3-10
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	学外の産学官と包括協定を結び、教育研究を通じて人材育成できる環境を整備している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山市と福山大学との連携に関する包括協定書 ②協働事業契約書 https://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/rcosr_prescribed/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	地域の産学官民と教職員の接点として、毎年、研究成果発表会を企画・実施している。来訪者のアンケート結果から、ブランディングに関する特別講演・個々の教員によるポスターセッションともに興味があることが確認できていることから地域の知の拠点に向けて貢献していると判断できる。アンケートに提示された改善点については、できる範囲で次年度に活かしている。社会連携センターが作成している研究者情報一覧及び研究成果発表集の冊子を用いて福山大学の研究力の認知を図っている。
年度目標	現状を維持

年度報告	新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度研究成果発表会は実施できなかった。ただし、例年通り研究者情報一覧と研究成果発表集は作成し、HPで社会へ広く広報している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度研究者情報一覧 https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7541000-3-9 ②2020年度研究成果発表集 https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7541000-3-10
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	社会連携センターは、直接、人材育成をする部署ではない。学外との連携による人材育成に関する情報は適宜、関係部署に伝達し取組みできるよう配慮している。
年度目標	現状を維持
年度報告	社会連携センターHPにて地域連携部・産学官連携部・知財部の活動や情報を紹介し、学生や教職員が閲覧できるようにしている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センター運営組織 https://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/rcosr_organization/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	社会連携センターは、備後地域との連携による教育研究の環境を整備し、様々な情報を教職員に配信している。地域の企業と連携する協働事業契約数は毎年増加していることから備後地域との連携は確実に図られている。
年度目標	現状を維持
年度報告	協働事業契約件数は、2020年度で6件増え累計35件となった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①協働事業契約書（35件）（2018年度～2020年度累計）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	社会連携センターは、直接、人材育成をする部署ではない。学外との連携による人材育成に関する情報は適宜、関係部署に伝達し取組みできるよう配慮している。
年度目標	現状を維持
年度報告	社会連携センターHPにて地域連携部・産学官連携部・知財部の活動や情報を紹介し、学生や教職員が閲覧できるようにしている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センター運営組織 https://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/rcosr_organization/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑧ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させることが必要です。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取り組んでいますか。
現状説明	社会連携センターは、大学ブランディングを直接、実施する部署ではない。大学ブランディング事業関係者からの相談に応じて、情報の提供、学外との連携・マッチングなど、支援している。また、研究契約や知的財産など、福山大学が不利にならないように契約内容には細心の注意を払って契約書をチェックしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①受託研究取扱規程 ②共同研究取扱規程 ③協働事業取扱規程

次年度の課題と改善の方策	
2020年度	社会連携センター
中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	社会連携センターは、直接、研究を実施する部署ではない。「瀬戸内の里山・里海学」の研究成果が地域貢献として反映できるようプロジェクトを支援する。
年度目標	現状を維持
年度報告	社会連携センターの活動の中でプロジェクト研究成果を地域企業や住民に広報した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度研究成果発表集 https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7541000-3-10 ②公開講座・公開授業企画文書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	社会連携センターは、研究実施部署ではないので獲得のための取組みはない。教員が外部資金を獲得する機会を逃さないよう助成金関係の情報を配信している。
年度目標	現状を維持
年度報告	外部資金に関する情報を社会連携センターニュースで全教職員に配信した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①社会連携センターニュース Vol. 31～Vol. 41
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	社会連携センターは、ブランディング研究の実施部署ではないので成果を保有していない。研究成果発表会の実施、HPへの研究成果発表集の掲載、などを通じて教員の研究成果を社会へ発表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	社会連携センター運営組織に福山大学ブランディング研究関連情報が掲載されている。また、研究成果発表集ではブランディング研究にマークを付けした。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①社会連携センター運営組織 https://www.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/rcosr_organization/ ②2020年度研究成果発表集 https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7541000-3-10
次年度の課題と改善の方策	